

第9話 学校研究 高校入試編③

前回に引き続き、帰国入試を行う高校を見ていきます。

桐蔭学園

神奈川県で有名学校です。広い敷地を利用し、スポーツも盛力を入れていますね。近隣の駅には、「甲子園出場！」といった部活動の垂れ幕もよく見られます。

さてこの学校の帰国入試は、中学入試のそれとよく似ていて、「日程が早い」「問題難易度を低く設定」といった特徴が見られます。

この学校で特記すべきは、「理数科」と「普通科」というコース選択です。ざっくり言うと、理数科が難関大志望のハイレベルコースですが、これらは出願時の併願が可能で、自分の得点結果に応じて「理数科合格」または「普通科合格」のように振り分けられます。

以降の受験で、早慶付属等の難関校を目指す場合、理数科での合格が欲しいところです。

出願時は、2つのコースを併願するようにしましょう。

出願資格が1年以上の海外経験と緩く、海外からも応募可能な書類選考もあるため、その後の入試への準備的な役割も担います。また、英検を持っていると強いアピールになる学校ですので、積極的に取得しておきましょう。

同志社国際

帰国生が3分の2を占める、帰国子女受け入れを目的にした学校です。選考方法は、小論文・書類・面接で行う「A選考」、国語・数学・英語の学科試験で行う「B選考」があります。A選考を選択した場合、小論文は日本語以外の言語でなくてはなりません。（通常は自身の滞在国の公用語）

12月の入試では、シンガポール、イギリス、アメリカに試験会場が設けられるので(B選考は日本・シンガポールのみ)、帰国日に縛りのある生徒にはうれしいですね。

またB選考の問題は、他の有名関西校に比べ、ぐっと難易度が下がります。関西圏へ帰国する予定であれば、最重要な学校の一つとなるでしょう。

ちなみに、この学校を一般生が受験するには5科目の学科が必要です。

法政大学女子

法政大学付属校のうち唯一、高校の帰国入試を行っている学校です。試験科目は作文・面接・書類審査で、学科の試験はありません。対策のしやすい受験ですが、そのぶん成果が見えづらくもあります。

中学入試のときにも少し触れましたが、作文対策はひたすら予定稿を準備することです。

例えば、現地でピアノを習っていたとしましょう。この経験だけでも「現地生活で頑張ったことは?」「日本と海外の違いは?」「海外生活で感じたことは?」など、いろいろな題に転用できます。もしくじけそうになったことがあれば、どうやって乗り越えたか。先生が外国人だったならば、日本人と比べてどんな違いがあったか。生徒に外国人がいたならば、習う姿勢の違いが見られたか、など。

意識してほしいのは、自分の作文を通じて面接をされている、ということです。これは、その他の書類にも通じます。常に、作文や面接のネタ探しをしておきましょう。

法政つながりということで、最後に法政第二高について。

この度共学校となった法政二高を帰国生が受験する場合、「書類選考」と「学科試験」の2択があります。学科試験は一般入試と同一で、合格者も一般生に含まれる形態ですが、書類選考にはある特徴があります。

2016年度の結果を見てみましょう。志願者は男子215人、女子186人。合格者も男子215人、女子186人。つまり、出願資格があれば、内定をもらえるということです。帰国生のネックとなる内申点も、英検等で加点が得られます。ただし、こちらは専願入試となるので第一志望の場合に限りますが、興味がある場合は早めに先生に相談しましょう。現地日本人学校からも出願が可能です。

さて、まだまだ続きます。気になることがあったらお気軽にご質問くださいね。

著者：谷口 仁

Aug 6 2016